

第二回・小豆島おへんろ報告書

写真・文 後藤

巡 場 小豆島八十八ヶ所

日 時 2020. 11. 4 (水) ~7日 (土)

参加者 後藤隆徳、加藤秀子、渡辺典子、鈴木新平、鈴木綾子、合谷守明、星 千代、
田内保子、松永 優、高岡八千代=10名

バ ス ナガノ・バス

11月4日 (水・晴)

長泉発 4:00—高松 13:00—小豆島・土庄 (とのしょう)—福田・民宿「ちぐさ」17:00 (泊)

約 700 km で高松着。高松ミュージアムに寄り、弘法大師の常設展を見学。天保年間、約 200 年前のご朱印帳があった。また、複製だが大師の筆は見事だった。

65 歳以上は無料。唯一未満の合谷は 300—支払った。どう見ても 65 歳以上の感じだが真面目。ただ、この後、彼は「財布紛失」の事件。

幸い出てきて、後日、高松警察に着払いで送って貰った。14:20 のフェリーは、「危険物運搬」で一般車は乗れず、1H 待たされた。おかげで福田着は暗くなっていた。昨年も



乗船したフェリー



島影



夕日



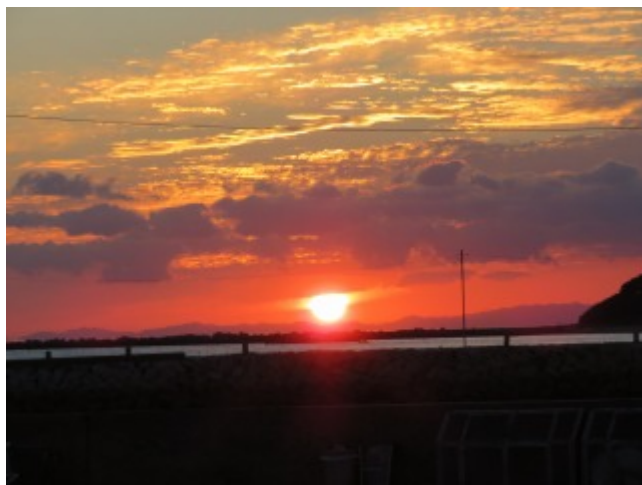
「ちぐさ」夕食

宿泊した民宿「ちぐさ」は、相変わらず豪華な夕食。またしても、完食出来なかった。貸し切りで一人一部屋だった。枕元に潮騒が聞こえる静かな宿。

11月5日（木・晴）

福田 6:33 一八十六番・當浜庵（あてはまあん） 7:42 一八十七番・海庭庵（かいていあん）
9:11 一八十八番・楠霊庵（なんれいあん） 9:50 一山越え一十二番・岡ノ坊（昼食） 11:18
一十三番・栄光寺 12:32 一十一番番・観音堂 13:18 一九番・庚申堂 13:54 一八番・常光寺
14:11～バス～二十四の瞳・映画村～安田・「ひろきや旅館」（泊）

宿から歩く。福田港の朝日が見事。天気は良かった。海岸線を進む。静かな播磨灘が見事。途中、大阪城築城時、切り出しの残石を見学。小豆島は花崗岩（御影石）の産地。各所に石切り場跡がある。（ちなみに、山などの三角点柱は、全て小豆島産という）。



日の出



美しい島並



石切り場



天狗岩

八十六番・當浜庵、八十七番・海庭庵を経て山を越え、二番・岡ノ坊で昼食。加藤が奮闘した「キノコ汁」がサイコーだった。今日の宿「ひろきや旅館」はすぐ近くだった。午後の最初は、十三番・栄光寺。大きく立派な寺だった。境内に高野山からの「三鈷（さんこ）の松」（十五メートル）があった。



栄光寺



三鈷の松

十一番・観音堂は近く。途中に見事な、コスモス畑があった。次が九番・庚申堂。今日は、この先の八番・常光寺で終了。

時間は早かったが、次の碁石山が岩山で時間が掛かるので、翌日、見学予定の「二十四の瞳映画村」に行く。

映画村は入場料が高ただけで最悪だった。翌日、行った本当の「岬の分教場」跡が良かった。宿の「ひろきや旅館」は、温かい、いい宿だった。



コスモス畑



碁石山を仰ぐ

11月6日（金・晴）

バス～八番・常光寺 6:54 ー七番・向庵（むかいあん） 6:57 ー碁石山 8:26 ー二番・碁石山
8:41 ー隼山（三番・奥の院） ー一番・洞雲山（とううんざん） 9:08 ー三番・観音寺 10:51
（昼食） ー四番・古江庵 12:43 ー五番・堀越庵 13:10 ー六番・田ノ浦庵 14:15 ー岬の分教
場 14:29 ー四番・古江庵 15:34～バス～安田・「ひろきや旅館」（連泊）

起床5時、バス発6時35分。バスで昨日最終の常光寺まで行く。七番・向庵はすぐ近く
だった。二番・碁石山に向かう。山道に入るところに放置された甘柿が たわわに実ってい
た。



お接待柿

「自然お接待」と勝手に解釈し何個か頂いた。美味しかった。荒れた道を上る。一人では気持ちが悪くて歩けないような道。道は、バイパスで上に林道があった。林道が終わると碁石山（寺）だった。大きな寺だった。

入り口に「鳥居」があった。右手に巨大な大師像。坂手港を睥睨していた。階段を上ると碁石山の岩場が現れた。岩は凝灰岩で八ヶ岳の大同心のような岩がポコポコしている。浸食つくされシッカリしているので全く問題ない。碁石山の名称はここから来たか。

80歳の鈴木新ちゃん、83歳の大姉御・高岡さんもガンガン上る。岩場の途中に見慣れない珍しい花があった。帰って調べたら「イワレンゲ」だった。ちょっと、サボテンの花のようだった。乾燥に強く岩場を好むという。ただ、本州にない植物。



イワレンゲ



頂上は標高 433m。展望が素晴らしい立派な山だった。記念写真を撮って下山。本堂でお勤め。本堂は、大きな岩屋で「鳳凰窟」という。意外だったが、若い僧侶がいた。

昨日の常光寺から毎日、上って来るといった。一遍のお経を一緒にやってくれた。いつも思うが、本物の僧侶の声は素晴らしい。岩屋だから更によく響く。

山を下る。三番・隼山（奥の院）、一番・洞雲山も岩屋だった。下りきれば、三番・観音寺。昼食にした。「温かいラーメン」が美味しかった。午後は、田の浦庵まで厳しい道だった。そもそも、余り歩かれていない道で荒れ放題。イノシシの掘り返しが凄い。予定は、往復するつもりだったが中止した。庵近くに「本当の岬の分校跡」がある。



二番・碁石山



一番・洞雲山

昨日の映画村より、静かで良かった。分校から、最後の踏ん張り。約 4.5 kmの車道を古江庵まで歩く。疲れ切った体にアスファルト道は辛い。15:34、長い一日が終わった。



「ひろきや旅館」(楽しい雰囲気伝わる)

11月07日(土・晴)

バス～四番・古江庵 6:47 一十番・西照庵 7:01 一十四番・清滝山 9:23 一二十番・佛ヶ滝 10:36 一十八番・石門洞 11:18 (昼食) 一十七番・一の谷庵 13:34 一十五番・大師堂一十六番・極楽寺 14:11～小豆島・「国民宿舎」(泊)

早朝、宿の窓を開けると、地面が濡れていた。夕べ少し降ったようだ。バスで昨日最終の四番・古江庵に戻り出発。辺りは、醤油工場が多かった。昨日も町の中に醤油の臭いが漂っていた。小豆島は、大豆の生産地でないが、醤油造りは盛ん。

十番・西照庵があった。ご本尊は、珍しい「愛染明王」で、ご本尊真言は、「オン マカラギャ バゾロシュニシヤ バザラサトバ」と、あまり聞いたことがなかった。

この日の目玉は、十四番・清滝山の上り。標高差が約 450m。厳しい上りである。散歩の地元の方と交流。年齢は 90 歳。若いころ、四国お遍路をやったという。粟地ダムから流れる川を詰めてダムに達した。脇に老人ホームがあって、丁度、職員が朝の登所だった。「頑張って下さい」のエールを受ける。ダムから林道を上る。当初、山道かと思ったが、山道は最後のわずかで、概ね林道だった。寺下に来ると バスで上った、鈴木新・松永さん



醤油工場



地元の方



粟地ダム



清滝山



上向きのお釈迦様

のエアールが聞こえた。寺が見えると、境内から朗々と詩吟が聞こえた。後で聞いたら年配の寺番の方の朝のボイス・トレーニングだった。それにしても見事な詩吟だった。

鈴木新・松永さんと合流して清滝山境内に上る。標高は約 500mで展望は良い。聞けば、寺番さんは毎日、十三番・栄光寺から上ってくるという。寺は立派・大きな岩山の下にある。境内を上がった所に、お釈迦様が横になっていた。

ただ、多く見られるような横向きでなく、上向きだった。このようなお釈迦様は初めて



清滝山

見た。境内の奥に大きな不動明王像があった。右側の岩は山の一部だった。

十四番から、車道を延々と下り、二十番・佛ヶ滝でお勤め終了後、更に車道を下り、寒霞溪（かんかけい）分岐から、十八番・石門洞に上る。ちょっと厳しい上りだった。

上から若い男子が一名降りて来た。周りは、何とか岩と様々な名称の大岩が林立していた。左手の境内に寺の名称になっている、巨大な「石門」があった。



昼食



オリーブ収穫

本堂は岩山内だった。サルが入るので（お参りするの??!!）「扉はちゃんと閉めて下さい」の看板が下がっていた。岩屋内はカビ臭かった。外に車があるので、何方かいるようだ。

お勤め後、山を下ると途中にバスが待っていた。有り難い。ここで 昼食とした。ランチは、「きな粉餅」だった。空腹に美味しかった。昼食後、再び山を下る。

寒霞渓湖を經由して、十七番・一の谷庵に向かう。山里の庵で分かり難かった。でも、雰囲気は良い庵だった。檀家の方が、チェーンソーでお墓の草刈りをしていた。再び下って十五番・大師堂から十六番・極楽寺に向かう。

途中、オリーブを収穫していた。聞けば、「実り方・種類」で化粧用・食用とか分けるといふ。極楽寺は小高い丘の上だった。しかし、実に立派な寺だった。言ってみれば「お城のような寺」だった。寺の前面に大きな池が左右にあった。池を渡って参道が続き、境内に導かれる。シビレるような寺だった。今回はここでお終い。時間はあったが、どのみち、もう一度来ないと「結願」しないので止めた。

今回の小豆島は終わった。宿の小豆島・国民宿舎に向かう。過去、国民宿舎は 問題が多かったが、今回はビンゴだった。小高い山上に建ち、瀬戸内海の展望は素晴らしい。風呂も良かった。三人部屋で二人利用は、コロナ対策??翌日、帰静した。

その他の記述

1. 全体的に天気には恵まれた。
2. コースは、踏まれていないコースがあり、なかなか厳しかった。
3. 宿は、全て良かった。
4. 昼食は、加藤の奮闘で美味しいものを食べた。
5. 完歩まで、最低、あと3日必要。



一の谷庵



極楽寺





「小豆島・国民宿舎」

